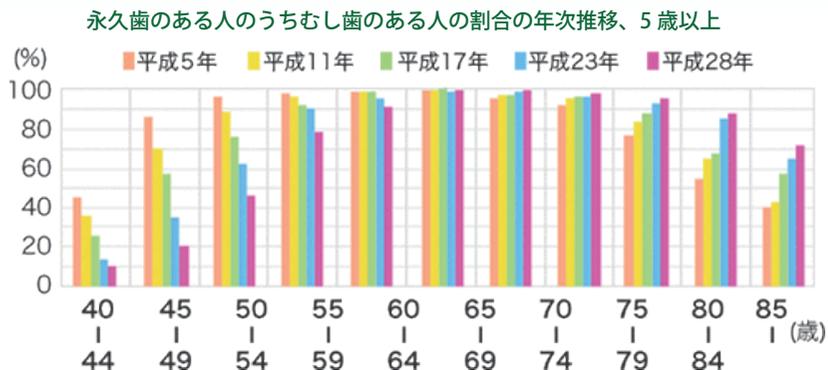


シニアの歯と口に起こること

このコーナーでは、60 才以上で自分でオーラルケアを行える人を想定したシニア世代のオーラルケアについてご紹介していきます。

シニアはむし歯、歯周病になりやすい！

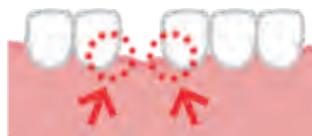


注) 平成5年以前、平成11年以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる。
(厚生労働省平成28年歯科疾患実態調査より)

厚生労働省の歯科疾患実態調査を見ると、シニアの歯の本数は増加傾向にあり、自分の歯と口で食事を楽しめる人が増えています。しかし、歯が増える傾向にあるのはうれしいことですが、近年、こどものむし歯が減っているのに、65才以上のむし歯が増えています。

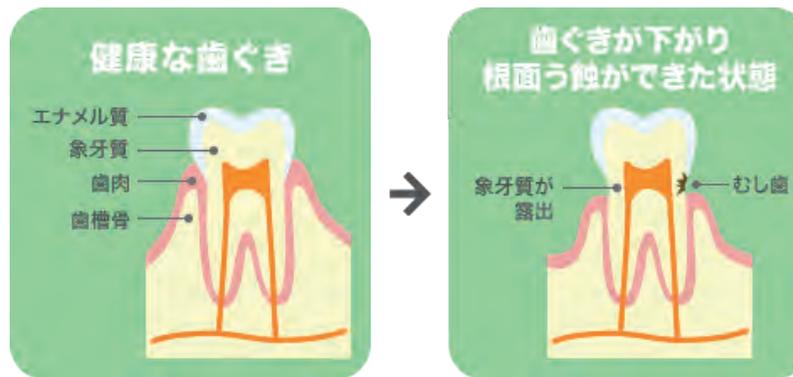
また、歯周病は、年齢が上がるほど罹患率が上がり、症状が進行（歯肉炎から歯周炎へ）する方が増えます。歯周病は、歯周病菌の感染によって、歯ぐきに炎症を起こし、症状が進行すると歯の土台である歯槽骨が溶けて健康な歯が抜けてしまう病気ですが、むし歯と違って、痛みがないまま病状が進行し、重症化してから気づくことも多く、近年、歯を失う原因の第1位は、むし歯ではなく、歯周病にかわっています。

抜けた歯や欠けた歯の周りには歯垢や食べカスがたまりやすく、むし歯や歯周病にかかりやすくなります。



高齢になるにしたがい、口腔機能の低下や、他の病気の影響、服用する薬の影響などから、抗菌や清浄の役割も果たしている「唾液」の出る量が減る傾向にあります。その結果、口の中が乾いてしまい、細菌が増殖しやすくなりがちです。シニア世代がむし歯や歯周病にかかりやすいのは、こうした口腔機能の低下も影響しています。

シニアのむし歯は手ごわい



加齢や歯周病により、シニアになるほど歯ぐきが下がってくる方が増え、歯の根元が露出しやすくなります。歯の根元は、エナメル質で覆われておらず象牙質が露出しているので、むし歯になりやすく、こうした歯の根元にできるむし歯（根面う蝕）は、むし歯の進行が早く、治療が難しい場合もあります。また、むし歯を治療した後の詰め物やかぶせ物のまわりのマイクロなすき間にむし歯菌が入りこんで再発するむし歯（二次う蝕）も増えます。これらのむし歯は、歯の奥深くに進行しやすい傾向があります。

